



たの福津弁

うち

祖母：隣の家のお子さんは最近生まれた弟の面倒をよくみてえらいね。

祖父：本当に、こうちんなお姉ちゃんやね。

こうちん？

(岡の2区) きのこ 篠田 稀心ちゃん

※解説は19ページの下

え方があります。「自助」とは市民一人一人が豊かな生活を送るために自分自身で努力することです。それには、介護予防や、人とのつながりをつくることなどが当てはまります。「公助」は法律や制度に基づいて市や県などの行政機関が提供するサービスのことです。「共助」は地域に住む人たちが住みよい地域づくりのために、協力し合うことです。日々の生活では自分だけでは解決できないこともあります。そのようなときに、地域の人たちが共に助け合うことで、はじめて安心した暮らしを送ることができま

す。もちろん、公助の役割も重要ですが、地域課題の解決のために共助が持つ力はとても大きなものだと思います。2月号で特集した地域分別の支援も共助の取り組みの一つだと思います。地域分別収集の支援に携わる人たちに、なぜ活動が続けられるか聞くと「お互いさまだから」と返ってきました。共助の取り組みを進めていくためにはこの「お互いさま」の気持ちが必要だと感じました。介護保険の特集は、特集内容に親しみを感

じょうしきを取りました。これからも分かりやすく、読みやすい紙面づくりに取り組んでいきます。広報2月号の感想 元気に暮らせるよう取り組んでいきたい 介護保険を考えると、利用したいときの相談の流れが分かりました。元気に暮らしていけるように取り組みでいきたいです。「手話言語法（仮称）」の質問に対してもお返事ありがとうございました。（ナオさん／日蔭野／68歳） お便りありがとうございます。 介護が必要になった場合でも、介護保険サービスを利用すること、元の生活に戻れたり、症状が悪化しないよう体調の改善を図ったりすることができます。また、早いうちから介護予防に取り

組むことも大切です。市では地域で行われている介護予防の取り組みなどをまとめた「福津市の地域資源」という冊子を作成しています。この冊子は市高齢者サービス課や市地域包括支援センターの窓口で見ることができます。また、市公式ホームページでも閲覧できます。介護予防などに関心がある人はぜひお読みください。質問への回答もお読みいただきありがとうございます。皆さんもご質問があれば、お便りをお寄せください。豊かな自然を活用してほしい 私 は里地里山など物などに関心があります。福津には豊かな自然があるので、バス会社などと連携して、生き物との触れ合いができるツアーを企画して

みてはどうでしょうか。観光の活性化や、人と自然や生き物が共生できる豊かな地域づくりにつながると思います。（moriyuhさん／32歳） 福津は海や山、干潟などの自然環境が豊かなまちで、その魅力が味わうために、多くの観光客が訪れています。市では野生生物の観察をメインとしたバスツアーは今のところ実施していませんが、ふくつ観光協会が新原・奴山古墳群などを巡るバスツアーなどを開催してきました。これらのバスツアーでは、玄界灘に面した美しい海岸線や緑豊かな田園地帯などの魅力ある景色、現代に息づく歴史文化を心から楽しむことができます。 今後、自然環境の保全に取り組みながら、それらを観光活性化に生かせるよう、関係機関と連携していきます。

お便り・投稿大募集 「好いとおー福津」は皆さんと一緒に作るページです。17ページの市まちづくり推進室宛のはがきやメールなどで受け付けています。お送りいただいた内容は、紙面の都合で加筆、修正、短縮する場合があります。また、応募多数の場合は選考しますので、掲載できないこともあります。原稿や写真は返却しませんのでご了承ください。匿名を希望する場合は、その旨を明記してください。広報紙への感想や日々の暮らしのことなど、たくさんの方の声を待ちしています。 問い合わせ 市まちづくり推進室 ☎ 43・811・33 メール info@city.fukutsu.lg.jp

市 の介護保険サービスの総費用が



50億円かかっていることや「元気になる学校」など、介護保険に関する具体的な紹介があつて良かったと思います。また、宮司3区のチーム53が行っている分別収集の支援や地域の見守りの活動はとても素晴らしい取り組みで感銘を受けました。

(Worldさん／通り堂／64歳) いつもお便りありがとうございます。 介護保険に関する特集では、読者の皆さんに介護保険サービスが必要に応じて利用することが、介護予防につながるということを紹介しました。インタ

ビューに答えてくれた理学療法士の藤田さんもおっしゃっていました。介護予防は「予防」なので、早めに取り組みることが、元気に暮らしていくことにつながります。この特集をきっかけに、読者の皆さんに、介護予防に関心を持ってもらえるとうれしいです。 もう一つの特集では、分別収集という切り口で、地域の支え合いの取り組みを紹介しました。ここでは、チーム53や若木台6区の分別収集の支援の取り組みをお知らせしましたが、分別収集以外にも自治会などで、外出支援や健康教室といった多様な支え合いの取り組みが行われています。これらは地域の人の協力をよって成り立っている活動です。支え合いの取り組みを通して、地域の輪が広がり、住みよい福津になることを願っています。

市内の自治会などでは、分別収集の支援だけでなく、高齢者を対象にした介護予防の健康教室やサロン、買い物などの外出支援などさまざまな取り組みが行われています。 2025年には団塊世代の人たちが75歳を超えて、国民の5人に1人が75歳以上になるといわれています。このような社会を迎える中、個人で介護予防な

ど、心身の健康づくりに取り組むことはもちろんのこと、高齢者の見守りや日々の生活の支援など、地域での支え合いはますます重要になっていきます。「地域の支え合いの力」が高まっていくことで「住み続けたい福津」が実現できるのではないかと期待しています。 広報2月号の感想 分別収集の支援の取り組みに感動

好いとお！

福津 あやか

読者の声を中心に、みんなと広報担当で作る交流コーナーです。今月の題字は日蔭野3区の尾上綾香さんが書いてくれました。

Readers Voice 読者の広場

分別収集の支援の取り組みの特集は良かったと思います。高齢者のかたが増えていく中、地域で買い物や分別収集の手助けが、それぞれの地域でできなければいいですね。そのような取り組みが広がり、住み続けたい福津になるといいですね。（Y・kさん／本木／55歳）

地 域で支え合う分別収集の特集で、困っている人を地域でサポートする体制に感動しました。介護保険の特集も会話形式で分かりやすく書かれていたと思います。（うめさくさん／中央／50歳）

住み慣れた場所での安心して暮らしていくためには「自助」「共助」「公助」の「3助」が大切だという考